

チュニジア

1. 2004年非鉄金属一般概況

世銀・IMFの支援により1987年来取り組んできた経済構造調整計画を1993年末まで実施。湾岸戦争により外国からの投資、輸出、観光収入が落ち込んだが、自由化・民活を図り、市場経済体制を推進、第9次5か年計画(1997-2001年)では、チュニジア経済の世界経済への統合を目指し、競争力強化のための生産性向上と経済の多様化を図り、年平均5.4%の経済成長を達成。第10次5か年計画(2001-2004年)では、製造業・IT産業でのレベルアップを図り、年5.5%の経済成長を目標としている。1995年7月EUとの間に2008年までに自由貿易ゾーンを設立する趣旨のパートナーシップ協定を締結し、経済の自由化を推進している。主要産業は、農業、鉱業(石油、燐鉱石、セメント)、工業(繊維、機械部品、電気部品、食品加工)、観光業である。

非鉄金属部門においては、昨今、あまり成果が上がっているとは言い難い状況であったが、2004年に新たな動きがあった。1つは、新たに設立されたMaghreb Minerals社(英)による既存探鉱権の買収、政府が所有する採掘権の条件付オプションの獲得を通じた鉛・亜鉛部門の集約化の動きであり、もう1つは、Albidon社(豪)による新たな金・銅の探鉱プロジェクトの開始である。両者ともに、積極的な探鉱を計画しており、今後の動向が注目される。

2. 2004年鉱業政策(鉱業法・税制、環境規制)の主な動き

2004年における動きは特になし。

3. 主要鉱産物の生産及び消費動向

単位：千t

	鉱山生産量		地金生産量		地金消費量	
年	2003	2004	2003	2004	2003	2004
銅	—	—	—	—	3.2	3.5
鉛	4.5	5.5	—	—	2.2	2.5
亜鉛	37.7	31.0	—	—	4.0	4.0

資料：World Metal Statistics Year Book 2005、ILZSG Monthly Bulletin April 2005

4. 鉱山及び鉱山会社の活動状況

(1) 稼行鉱山

チュニジアの亜鉛生産の柱となる Breakwater Resources(BR)社(カナダ)の Bougrine 亜鉛鉱山の2004年の生産量は、亜鉛 28,265t(前年比-19.2%)、鉛 5,470t(21.5%)で、売上高は20.8百万Cドル、操業利益は5.2百万Cドルの損失で、前年に引き続き赤字となった。同鉱山は鉱量枯渇のため2005年9月に操業を停止する予定である。それを踏まえ、破碎機を転用してセメントを生産する研究を2003年後半から開始しており、2004年に経済性評価を実施したところ、経済性を有する結果となった。この転用計画は、現在、政府と調整中である。

その他、政府の所有する Fej Lahdoum 鉱山から鉛・亜鉛を若干量生産している。

(2) 探査状況

Maghreb Minerals社(英)の活動状況

Maghreb Minerals社(英)は、チュニジアにおける鉛・亜鉛の探鉱資産を買収し、それらを開発するために2004年6月に設立され、以降、High Marsh Holdings社(HMH)を買収、自社株と引き換えに Consolidated Global Minerals社(CGM)から同社が所有する Mine Option と探鉱権の獲得を通じ、結果、チュニジアにおける9つの鉛・亜鉛の探鉱権、及び政府所有の鉱山に関する条件付オプションをチュニジア政府から獲得するに至った。

政府との条件付オプション契約の内容は、政府が所有する Fej Lahdoum 鉱山及び Bou Jabeur 鉱山の獲得の交渉権等である。各鉱山は MM社が持つ探鉱区に隣接している。条件は100万チュニジア・ディナール(45万英ポンド)の投資または2鉱山周辺における5000m程度のボーリング調査の実施とされている。また、CGM社はMM社の32.62%のシェアを所有することとなった。

MM社が所有することとなった9つの探鉱区は次のとおりであり、政府とのオプション条件にもあることから、2005年から本格的な調査を行う予定である。

Fej Lahdoum - Ain Jemmala — 4 鉱区、197km²
Djebba — 16km²
Hammala — 4km²

Lorbeus (Koudiat Louatia) - 4km²
Koudiat Sidii - 4km²
Ouled Moussa (Bou Jabeur) - 16km²

Albidon 社の活動状況

(NEFZA 銅-金プロジェクト)

Nefza プロジェクトは、チュニジア北西部、チュニスの西、約 80km に位置し、プロジェクト面積は 4,160km² である。鉱区には、鉛、亜鉛、銀の含有が期待される堆積岩、及び銅の鉱化に関連する花崗岩と火山岩を含んでいる。鉱山局からの地化学データ及び物理探査データの解析を進めており、2004 年後半に、これまで実施していなかった金をターゲットとした地化学サンプリングを実施し、結果、5km の長さにおよぶ金の異常値が確認され、露出部のサンプルについては最高値 1g/t が計測された。

2005 年には、ベースメタルをターゲットとした地表での物理探査に加え、新たに発見された金の鉱徴に対するボーリングの目標を定義するための追加の地化探サンプリング、地質マッピングを実施する計画である。

なお、同社と WMC Resources 社(豪)の子会社 WMC Resources Exploration 社(WMCE)との間で 2004 年 10 月に、アフリカにおける複数の探鉱開発プロジェクトの共同開発契約を締結しているが、本プロジェクトもその中に含まれている。契約の対象となるプロジェクトは、本件の他は

全てニッケル案件であり、タンザニア 6 プロジェクト、マラウィ 3 プロジェクト、ザンビア 2 プロジェクト、ボツワナ 12 プロジェクトが対象となり、WMC 社が 2006 年 7 月までに、これらプロジェクトの探査費用として総額 4 百万豪ドル負担するという条件で、権益を取得するといった内容である。

(Jebel Trozza - Jebel Touila 亜鉛プロジェクト)

BHP Billiton 社との JV 協定で Albidon 社によって実施されることとなった本探査プロジェクトは、チュニジア中央部、チュニスから行程 200km の場所に位置し、面積は 2,375km²。鉛・亜鉛硫化物鉱床のポテンシャルを持つ中生代の炭酸塩岩を含む。(以前に実施したボーリングの最もよい結果としては鉛含有率 17%、幅 6.08m を確認。)

2004 年は、地質、地化学データ解析、詳細な地質調査、地化学岩石サンプリング、地質総合解析を実施し、結果、鉱化帯がボーリング地点から北方向への延長の可能性があることが得られており、2005 年にはさらに地質解析、ボーリング等が予定されている。

(2005. 6. 6 / ロンドン事務所 高橋 健一)